

第25回山梨医学フォーラム

2024年6月5日（水）

18：00～19：30

会場：山梨大学医学部 臨床大講堂
山梨県中央市下河東1110 TEL:055-273-1111（代表）

特別講演：18：00～19：30

座長：三井 貴彦 先生
山梨大学医学部泌尿器科学講座 教授

「新興再興感染症の病理とワクチン開発」

演者：国立感染症研究所
インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター

長谷川秀樹 先生



◆日本医師会生涯教育講座認定：8：感染対策（1.5単位）の対象となります

共催：山梨大学医学部 山梨大学医師会 山梨大学医学会
後援：山梨医学会 山梨県医師会生涯教育委員会

【講演抄録】

新型コロナウイルスの出現とパンデミックにより世界中が影響を受ける事態になっている。ヒトにとって新しい病原体による感染症がいままで以上に注目され対応が求められている。ヒトにとっての新しい感染症は新型コロナウイルスに限らず最近でも頻繁に起こってきた。パンデミックインフルエンザや鳥インフルエンザウイルス感染症、中東呼吸器症候群 (MERS)、エボラウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、ジカウイルス感染症など、新興・再興感染症は人類にとって大きな脅威であり続けている。日本では見られなくなった疾患、あるいは発生が特定地域に限られるような疾患であっても、近年のグローバル化に伴い、海外で感染して国内に輸入される感染症は増加しており、いつ国内発生例が出現するかも予測できない状況に置かれている。これらに対して正しい対応をするには病態病理を理解する必要がある。これら新興・再興感染症の研究においては病原体に重点が置かれる事が多いが病態を総合的に理解し生体の応答を含めた病因の解明には病理学的解析が欠かせないと考えられる。これら感染症の最も有効な防御方法はワクチンである。ワクチン開発においては病態病理の理解が欠かせない。特にインフルエンザ等の急性呼吸器感染症の防御には粘膜免疫が重要な働きをする。粘膜での免疫応答と感染病態に応じたワクチン開発について紹介する。

略歴：

1993年3月 北海道大学医学部医学科卒業
1995年7月 米国・ロックフェラー大学留学
1996年6月 アイルランド・ユニバーシティカレッジダブリン留学
1997年3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（博士（医学））
1997年10月 国立感染症研究所感染病理部研究員
2011年4月 国立感染症研究所感染病理部長
2019年4月 国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター
（現・インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター）センター長（現職）
世界保健機関（WHO）インフルエンザ協力センター長（併任）

非常勤：

北海道大学ワクチン研究開発拠点客員教授
東北大学大学院医学研究科客員教授
横浜市立大学大学院医学研究科客員教授
早稲田大学理工学院客員教授

政府委員等：

内閣府新型インフルエンザ等対策推進会議基本的対処方針分科会委員
厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会委員
東京iCDC 専門家ボード微生物解析チームリーダー

学会評議員など：

日本ウイルス学会理事
日本ワクチン学会理事
日本神経感染症学会理事
Global Virus Network Center Director